

琉球大学学術リポジトリ

巻頭言：本会3年の歩みと今後の方向

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 泉, 裕巳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017511

【巻 頭 言】

本会 3 年の歩みと今後の方向

本会が発足し、早くも3年を経過し、今回の総会では役員改選の時期を迎えた。この間、新しい研究会としては国際シンポジウムまで開くなど思いがけないほどの活動ぶりだった。著名な人達による特別講演会も度々開かれ、一般への啓蒙の役割も十分に果たしたように思う。特に、本会が対象としている資源のうち、生物資源の利用についてはここ1年の間に一般の人達にも急速に理解が深まっている。昨年、沖縄でバイオマス国際シンポジウムを開催した時には、まずバイオマスという言葉から説明しなければならない状態であったが、その後新聞等の度重なるキャンペーンもあって、沖縄が生物資源利用技術開発にいかにより有利な位置にあるかということはよく理解されているようである。この面での研究・調査には沖縄では産・官・学の連携が非常に旨くいっている。沖縄を舞台として何らかの調査研究事業を行う時に、産・官・学のメンバーが実によく協調して仕事を進めているのは他府県の人々がうらやむところであるが、その際生物資源関連のプロジェクトにはメンバーをみると大半が本会の関係者であることが多く、本会の事業としてではなくても、本会設立の趣旨の一つである会員の相互連携による研究の推進には非常に役立っているし、また本会に対する周囲の認識が高まっているものとして喜ばしい。

ところで、本会の対象としている「南方資源」は生物資源にとどまらず、熱帯・亜熱帯特有の資源であればどのようなものでも、水資源の問題はもちろん、太陽エネルギー、風までもその中に含めて考えているのである。この面では本会会員も、たとえば、森田大理事を中心とした方々が非常に活発に活動しておられるが、本会の事業活動としては前述の生物資源関連のものほど目立たないような気がする。近々改選される次期役員は、発足の運びとなっている各研究部会活動を通じて、この方面の活動にも大いに力を入れていただきたいと思っている。

本会理事 泉 裕巳

(琉球大学農学部教授)